

中学生のための北方領土学習 授業展開案（富山県「北方領土問題」教育者会議版）

	学習内容	時間	学習活動	指導上の注意点	資料	該当する教科書の単元（例）	
						東京書籍	帝国書院
地理	○緯度、経度で見た日本 ○島国の日本	20分	・世界的視野から北方領土の位置を確かめる。	・北方領土と同緯度の都市を調べたり、東京やモスクワからの方位と距離をとらえたりさせるようにする。	地球儀	・地球儀と地図のちがいを知ろう（P14）	略地図を描こう（P38）
	○領土をめぐる問題点 ○日本の領土返還と北方領土	30分	・国境を調べ、ロシア・中国・韓国との領域をめぐる問題を理解する。	・北方領土問題については地図帳で帰属が未定の部分に着目させるなどして、日本の主張を正確に理解させる。	地図帳	・日本の広さを調べてみよう（P34） （領土をめぐる問題）	日本の範囲はどこまで（P29）
	○国土と経済水域	50分	・日本の東西南北の島を調べ、領土と経済水域を合わせた日本の範囲を確かめる。 ・北端の島（択捉島）を含めた北方領土の位置と島名を知る。 ・北方領土問題について知る。	・白地図を使って色塗りをする等の工夫をする。 ・北方領土の地図を活用する。動植物の分布、気候などの特色、島の名前の由来等を紹介し関心を高める。 ・簡単に紹介し、次の時間につなげる。（次時は、北方領土問題を1時間扱いで行う。）	・領土、経済水域がわかる白地図 ・北方領土の地図	・日本の広さを調べてみよう（P34） （領土をめぐる問題）	日本の範囲はどこまで（P29）
	○列車の旅（黒部から根室まで） ○日本地図を描いてみよう	20分	・黒部から根室まで、列車で旅行する際のルート調べ、日本地図（白地図）に記入するとともに、時刻表から所要時間も調べる。さらに、旅行ルートを記入した地図をもとにして、北方領土を含めた日本の略地図を描く。	・根室から北方領土までの直線距離を測らせる。この時、学校からほぼ同距離の地点を予め見つけておいて紹介し、北海道と北方領土の近さを実感させる。 ・白地図を描かせる際は、必ず北方領土から描き始めさせる。	・日本の白地図 ・時刻表	・略地図を描いてみよう（P42）	・日本の略地図を描こう（P38）
歴史	○北方探検	10分	・ラクスマンの来航に対する幕府の対応を考えよう。 ・近藤重蔵の足跡を白地図でたどってみよう。（最上徳内の調査についても時間に余裕があればとりあげる。）	・ラクスマンが来航した頃の蝦夷地はどんな人が生活していたかを資料から読み取る。 ・択捉島にまで行っていることや、そこに標柱を建てていること（1789年）を紹介する。	・「おろしや国粋夢譚」（井上靖 著） ・「間宮林蔵」（吉村昭著） ・白地図	・幕府時代の改革（P113） ・外国船の出現と天保の改革（P116）	・せまりくる外国と広がる改革の波（ロシアの接近と北方体験）（P128）
	○領土の画定 ○樺太・千島交換条約	15分	・既習事項の日露通好条約（1855年）で国境が定められたことを確認する。 ・樺太千島交換条約が結ばれた背景を考えよう。	・このとき、ロシアとの国境（択捉島とウルップ島との間）が定められていることを確認する。 ・交換した領土を白地図で色分けさせ、北方領土が日本の領土に含まれていることを確認する。	・日露通好条約当時の北方地図 ・白地図	・近代的な国際関係（P148）	・新しい外交関係を求めて（国境と領土）（P157）
	○ポーツマス条約の内容	15分	・ポーツマス条約の内容を知る。 ・条約で日本の領土とされた地域を知る。	・日露通好条約、樺太千島交換条約、ポーツマス条約で定められた領土の範囲がわかる地図を活用し、領土の移り変わりが分かるように工夫する。	・北対協、外務省等で発行されている資料	・日露戦争（P158）	・日露戦争と日本の立場（日露戦争）（P172）
	○日ソ中立条約	15分	・ソ連が1945年8月8日に日本に宣戦布告してきた後の様子や、その後、今日に至るまで、北方四島がソ連→ロシアにより不法占拠されていることを知る。 また、ポツダム宣言が、ソ連→ロシアの不法占拠の理論的な裏付けになっていることも知る。	当時の新聞記事で、ソ連の侵攻ルートが、満州・朝鮮・千島列島・南樺太の4つあったことに触れる。 また、ソ連の参戦が、ヤルタ会談で結ばれた、米英ソの秘密協定に基づくものであったことを知らせる。	ポツダム宣言（第8項のあるもの） 資料「ソ連の参戦」	・戦争の終結（P194）	・戦争の拡大から第二次世界大戦へ（P206） ・それぞれの敗戦と戦後の出発（P214）
	○平和条約と国連加盟 ○日ソ共同宣言	20分	・サンフランシスコ平和条約について、当時の世論を意識しながら話し合う。 ・日ソ共同宣言になった理由を考え、話し合う。（平和条約を結ばなかったわけを考える。）	・東アジアの国々が、日本の動きをどのように見ていたのかに留意する。 ・北方領土問題があることに気づかせる。		・国際社会に復帰する日本（P208）	・日本の独立と安全保障（P224）
公民	○日本の領域	50分	・主権や領域の意味を理解する。 ・教科書の地図帳の記事から、北方領土問題について知る。 ・CD「北方領土」のビデオ（5分）を見て、北方領土問題解決に向けての方策を話し合う。	・北方領土問題そのものについては、既習事項であるので、軽く触れる程度にする。 ・政府の基本方針（話し合いによる平和的な解決）をふまえて話し合うようにする。 ・今後の日露両国のあり方などの大きな視点と、自分にできることなどの身近な視点の、両面から考えさせる。	・CD「みんなで考えよう 知ろう北方領土」（（財）日本経済教育センター制作）	・主権国家と国際社会（P154）	・国家と国際社会（P152）

※（注）教科書については、平成18年度において富山県内で主に扱っている教科書2社を事例として掲載しました。

※ 資料は一部貸し出し可能なものもあります（北方領土地図、ビデオ、CD等）。希望される方は、事務局までお問い合わせください。（富山県「北方領土問題」教育者会議事務局（富山県知事政策室内：TEL076-444-9608）